

高知県感染症発生動向調査（週報）

2014年 第29週（7月14日～7月20日）

★お知らせ

○夏型感染症（咽頭結膜熱・手足口病・ヘルパンギーナ）に注意しましょう！

これらの疾患は夏に流行する代表的な疾患で、患者の咳や水疱内容物、便などに含まれるウイルスを介して感染します。口の中の発疹やのどの痛みなどから食事や水分を十分にとれず、脱水になることもありますので、こまめな水分補給を心がけてください。回復後も約2～4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されることがあります。幼稚園、保育園、学校など集団生活ではタオル・コップ等を共用することは避けましょう。

定点医療機関からの報告数は、咽頭結膜熱が中央西、幡多福祉保健所管内で注意報値を、ヘルパンギーナは須崎、安芸、中央東、幡多福祉保健所管内で注意報値を超えています。

○ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

ダニに刺されることで起こる感染症は、ダニの活動時期である春から秋にかけて多くみられます。ウイルスやリケッチアなどの病原体を保有する「マダニ」に刺されることで感染する「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」「日本紅斑熱」「つつが虫病」などが主な病気です。農作業や庭仕事、レジャーなど野外で活動する際には、長袖、長ズボンなどを着用して皮膚の露出を避けましょう。また、ディート（忌避剤）が含まれた虫除け剤の使用も有効です。吸血中のマダニを見つけた場合や咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、できるだけ医療機関を受診してください。

高知県では今年、SFTSは5月に1例、6月に3例、7月に2例、日本紅斑熱は5月に1例、6月に2例報告されています。

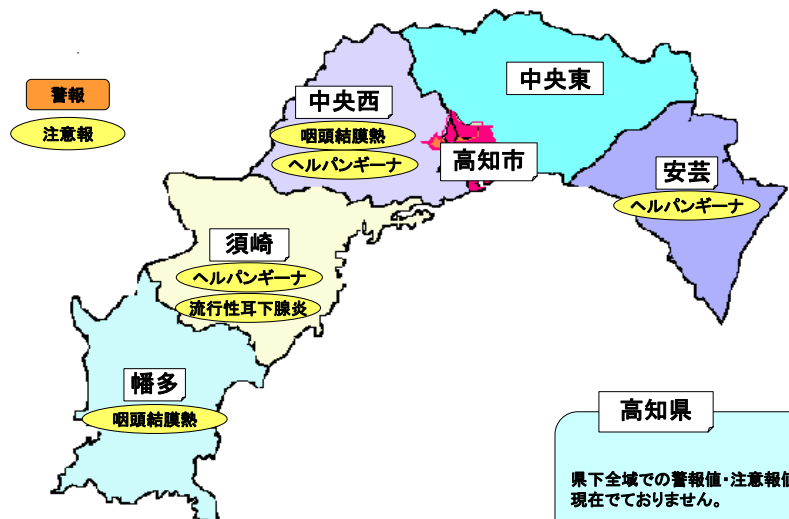
参考：マダニ対策、いまできること（<http://www.nih.go.jp/niid/ja/sfts/2287-ent/3964-madanitaisaku.html>）

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	2. 20	高知市、中央東で増加しています。
ヘルパンギーナ	→	1. 90	須崎、安芸、中央東、幡多で増加し、須崎、安芸、中央西では注意報値を超えています。流行のシーズンなので注意してください。
流行性耳下腺炎	↗	1. 27	高知市、中央西、幡多で増加し、須崎では注意報値を超えています。
水痘	↗	0. 93	幡多、須崎、高知市、安芸で増加しています。
突発性発疹	→	0. 60	中央西、安芸、中央東で増加しています。

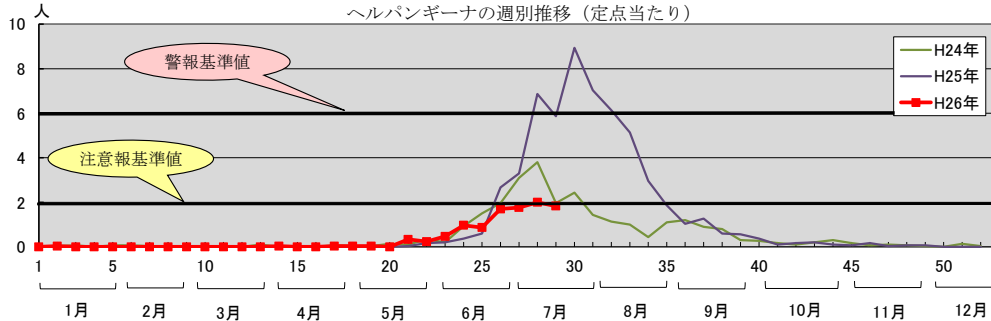
★地域別感染症発生状況



★気をつけて！

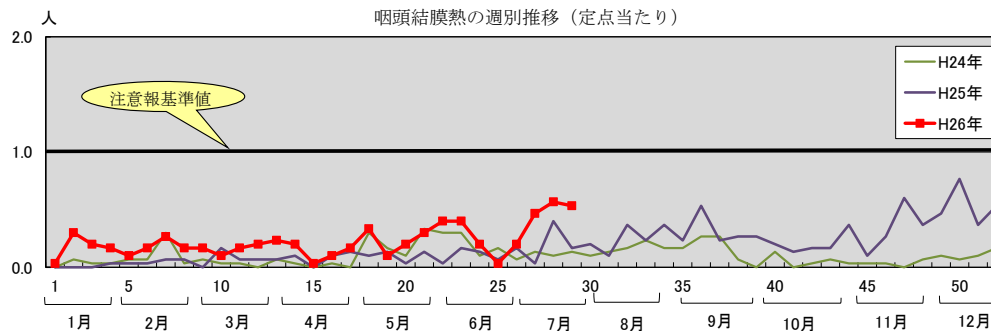
○ヘルパンギーナ：1.90（注意報値：2.00 警報値：6.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 1.90（前週：2.00）と横ばいです。地域別にみると、須崎（4.50：前週 4.00）安芸（4.00：前週 3.00）中央東（1.71：前週 1.57）幡多（0.60：前週 0.00）で増加し、須崎、安芸、中央西（2.67：前週 5.00）では注意報値を超えています。年齢別にみると約 95%以上が 0～5 歳になっています。



○咽頭結膜熱：0.53（注意報値：1.00 警報値：3.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 0.53（前週：0.57）と横ばいです。地域別にみると、中央西（2.33：前週 0.00）で増加し、中央西、幡多（1.80：前週 3.20）では注意報値を超えています。年齢別にみると、約 75%が 0～3 歳になっています。



★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	76	80歳代（男）	中央東
4類	重症熱性血小板減少症候群	2	6	70歳代（女） 80歳代（男）	幡多

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
29	感染性胃腸炎	7ヶ月	男	高知市	Adenovirus 41 Coxsackievirus A4
29	感染性胃腸炎	4	男	須崎	Coxsackievirus A4
29	急性発疹症	11ヶ月	男	須崎	Coxsackievirus A5
29	インフルエンザ	5	男	高知市	Parainfluenza virus 3
29	インフルエンザ	41	男	高知市	Parainfluenza virus 3
29	インフルエンザ	9	男	高知市	Parainfluenza virus 3
29	インフルエンザ	63	女	高知市	Parainfluenza virus 3
29	インフルエンザ	45	男	高知市	Parainfluenza virus 3

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
27	不明発疹症	4	女	須崎	Human herpes virus 6
27	手足口病	2	男	須崎	Human herpes virus 7
28	不明発疹症	10ヶ月	男	須崎	Human herpes virus 6
28	手足口病	3	女	須崎	Human herpes virus 6

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
高知市	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス扁桃炎 1 例 (5 歳男) マイコプラズマ肺炎 1 例 (32 歳女) カンピロバクター腸炎 2 例 (5、10 歳男) 病原性大腸菌腸炎 O-25 1 例 (10 歳男)
	国立病院機構高知病院小児科	ロタウイルス胃腸炎 1 例 (7 ヶ月男)
中央西	日高クリニック	アデノウイルス感染症 1 例 (3 歳男) 帯状疱疹 1 例 (11 歳女)
	石黒小児科	ムンプス 2 例 (3、10 歳男；予防接種済み) 水痘 1 例 (4 歳男；予防接種済み)
須崎	もりはた小児科	アデノウイルス扁桃炎 3 例 (1、3、4 歳) ヘルペス性歯肉口内炎 1 例 (5 歳女) 帯状疱疹 2 例 (11 歳男、13 歳女)
幡多	さたけ小児科	膿痂疹 4 例 (1、2 歳男、5、8 歳女) アデノウイルス感染症 1 例 (1 歳女)
	渭南病院小児科	アデノウイルス咽頭炎 1 例 (9 ヶ月女)

★全国情報

第27週 (6/30～7/6)

- 1類感染症：報告なし
- 2類感染症：結核424例
- 3類感染症：細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症151例
- 4類感染症：E型肝炎1例、A型肝炎1例、重症熱性血小板減少症候群1例、つつが虫病2例、デング熱4例
日本紅斑熱5例、ブルセラ症1例、マラリア1例、レジオネラ症32例
- 5類感染症：アメーバ赤痢16例、ウイルス性肝炎5例、急性脳炎4例、クリプトスポリジウム症4例
クロイツフェルト・ヤコブ病4例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、梅毒28例
後天性免疫不全症候群19例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、侵襲性肺炎球菌感染症13例、
破傷風3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん3例、麻しん14例
- 報告遅れ：日本紅斑熱4例、マラリア1例、急性脳炎4例、クリプトスポリジウム症59例、
劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例

★腸管出血性大腸菌感染症 (2014年7月9日現在)

2014年の腸管出血性大腸菌 (EHEC) 感染症報告数は、第14～16週に食中毒の発生が影響し、一時的に増加がみられた。その後は毎週50例未満の報告が続いたが、第24週から再び50例を超えて増加し始めた。第25週に急増し、それ以降例年を上回る報告数 (第25週139例、第26週164例、第27週151例) であった。本年第27週までの累積報告数1,024例は、直近5年間 (2009～2013年) の各年同週までの累積報告数と比較して、2013年に次いで2番目に少ない報告数である (2009年1,034例、2010年1,330例、2011年1,318例、2012年1,048例、2013年906例)。一方、患者 (有症者) に絞った累積報告数は731例であり、2011年、2010年に次いで3番目に多い (2009年670例、2010年830例、2011年894例、2012年651例、2013年646例)。

第1～27週の累積報告数を都道府県別にみると、東京都 (130例) が最も多く、次いで埼玉県 (97例)、神奈川県 (81例)、福島県 (53例)、大阪府 (43例) の順であった。特に、東京都、埼玉県、神奈川県の上位3都県は、第24週以降毎週10～25例前後の報告が続いている。第24週以降、上位3都県から報告されたEHEC (O血清群と毒素型) はO157 VT1・VT2が多数を占めているが、現在までのところ施設内集団発生等の報告はない。一方、その他の地域では、第26週に千葉県の介護施設 (O157 VT1・VT2)、第27週に千葉県の高校 (O157 VT1・VT2) から集団発生の報告があった。

性別では男性が469例 (46%)、女性が555例 (54%) で、年齢群別では0～9歳253例 (25%；うち5歳未満135例)、10～19歳168例 (16%)、20～29歳145例 (14%) の順であった。EHEC感染症の重篤な合併症である溶血性尿毒症症候群 (HUS) の発症は、第27週までに累積29例 (男性14例、女性15例) が報告されていた。直近5年間の同週までの累積報告数と比較すると、ユッケを原因とした食中毒によりHUS発症例が増加した2011年に次いで2010年と並び2番目に多い報告数であった (2009年18例、2010年29例、2011年56例、2012年23例、2013年16例)。年齢群別では0～4歳が15例で最も多く、次いで5～9歳6例、10～14歳4例と小児が多数を占めた。

EHEC感染症の死亡は1例 (40代男性、HUS未発症) 報告された。

EHEC感染症が多発する夏季は、食肉の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などを行うことにより、食中毒の予防を徹底する。特に、低年齢の小児はEHEC感染とその後のHUS発症のリスクが高く、徹底した感染予防が重要である。また、ヒトからヒトへの二次感染を予防するための注意も必要である。毎年保育施設における集団発生が多くみられており、日ごろからの注意として、オムツ交換時の手洗い、園児に対する排便後・食事前の手洗い指導の徹底が重要である。また、簡易プールなどの衛生管理にも注意を払

う必要がある。さらに、過去には動物とのふれあい体験での感染と推定される事例も報告されており、動物との接触後の十分な手洗いや消毒が必要である。

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第29週 平成26年7月14日(月)～平成26年7月20日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所						計	前週	全国(28週)	高知県(29週末累計)		全国(28週末累計)	
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				H25/12/30～H26/7/20	H25/12/30～H26/7/13		
インフルエンザ	インフルエンザ							()	()	216 (0.04)	10,739 (223.73)	1,461,772 (296.63)		
小児科	咽頭結核熱				7		9	16 (0.53)	17 (0.57)	2,409 (0.76)	195 (6.50)	43,961 (13.97)		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	6	2	1	3	13 (0.43)	21 (0.70)	6,268 (1.99)	561 (18.70)	183,183 (58.23)		
	感染性胃腸炎	10	11	35	4	1	5	66 (2.20)	78 (2.60)	13,496 (4.28)	6,948 (231.60)	627,027 (199.31)		
	水痘	1	8	7	3	2	7	28 (0.93)	23 (0.77)	2,631 (0.83)	1,019 (33.97)	98,887 (31.43)		
	手足口病			2				2 (0.07)	6 (0.20)	3,026 (0.96)	43 (1.43)	20,900 (6.64)		
	伝染性紅斑							()	()	1,154 (0.37)	21 (0.70)	15,556 (4.94)		
	突発性発疹	1	3	11	3			18 (0.60)	17 (0.57)	2,007 (0.64)	369 (12.30)	45,987 (14.62)		
	百日咳							()	1 (0.03)	65 (0.02)	7 (0.23)	1,083 (0.34)		
	ヘルパンギーナ	8	12	17	8	9	3	57 (1.90)	60 (2.00)	11,758 (3.73)	312 (10.40)	37,911 (12.05)		
	流行性耳下腺炎		1	19	5	6	7	38 (1.27)	22 (0.73)	1,183 (0.38)	1,142 (38.07)	23,224 (7.38)		
RSウイルス感染症							()	()	282 (0.09)	297 (9.90)	23,182 (7.37)			
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	4 (0.01)	()	213 (0.31)		
	流行性角結膜炎							()	()	488 (0.71)	21 (7.00)	10,746 (15.73)		
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	6 (0.01)	8 (1.00)	223 (0.47)		
	無菌性髄膜炎			1				1 (0.13)	()	25 (0.05)	11 (1.38)	468 (0.99)		
	マイコプラズマ肺炎			4				4 (0.50)	7 (0.88)	125 (0.26)	129 (16.13)	3,141 (6.64)		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)							()	()	6 (0.01)	8 (1.00)	193 (0.41)		
	感染性胃腸炎		1	1				2 (0.25)	2 (0.25)	30 (0.06)	136 (17.00)	3,785 (8.00)		
計	20	37	103	32	19	34	245		45,179	21,966	2,601,442			
(小児科定点当たり人数)	(10.00)	(5.13)	(8.83)	(10.67)	(9.50)	(6.80)	(7.93)			(587.53)				
前週	19	36	103	30	30	36		252						
(小児科定点当たり人数)	(9.50)	(5.16)	(8.55)	(10.00)	(15.00)	(7.20)		(8.17)						

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所						計	前週	全国(28週)	高知県(29週末累計)		全国(28週末累計)	
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				H25/12/30～H26/7/20	H25/12/30～H26/7/13		
インフルエンザ	インフルエンザ									0.04	223.73	296.63		
小児科	咽頭結核熱				2.33		1.80	0.53	0.57	0.76	6.50	13.97		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.14	0.55	0.67	0.50	0.60	0.43	0.70	1.99	18.70	58.23		
	感染性胃腸炎	5.00	1.57	3.18	1.33	0.50	1.00	2.20	2.60	4.28	231.60	199.31		
	水痘	0.50	1.14	0.64	1.00	1.00	1.40	0.93	0.77	0.83	33.97	31.43		
	手足口病			0.18				0.07	0.20	0.96	1.43	6.64		
	伝染性紅斑									0.37	0.70	4.94		
	突発性発疹	0.50	0.43	1.00	1.00			0.60	0.57	0.64	12.30	14.62		
	百日咳								0.03	0.02	0.23	0.34		
	ヘルパンギーナ	4.00	1.71	1.55	2.67	4.50	0.60	1.90	2.00	3.73	10.40	12.05		
	流行性耳下腺炎		0.14	1.73	1.67	3.00	1.40	1.27	0.73	0.38	38.07	7.38		
RSウイルス感染症									0.09	9.90	7.37			
眼科	急性出血性結膜炎									0.01		0.31		
	流行性角結膜炎									0.71	7.00	15.73		
基幹	細菌性髄膜炎									0.01	1.00	0.47		
	無菌性髄膜炎			0.20				0.13		0.05	1.38	0.99		
	マイコプラズマ肺炎			0.80				0.50	0.88	0.26	16.13	6.64		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									0.01	1.00	0.41		
	感染性胃腸炎		1.00	0.20				0.25	0.25	0.06	17.00	8.00		
計	10.00	5.13	8.83	10.67	9.50	6.80	7.93			587.53				
(小児科定点当たり人数)														
前週	9.50	5.16	8.55	10.00	15.00	7.20		8.17						
(小児科定点当たり人数)														

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869